

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：33403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21730429

研究課題名（和文）

ポピュラー文化の収集・保存・展示をめぐる記憶とナショナリズムに関する国際比較研究

研究課題名（英文） International Comparative Research on Memory and Nationalism related to the Collection, Preservation, and Exhibition of Popular Culture

研究代表者

山中 千恵 (YAMANAKA CHIE)

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：90397779

研究成果の概要（和文）：

本研究では、消費・廃棄されてきたポピュラー・メディアを収集・保存・展示する博物館に注目し、誰によって、何が「文化」として選択されるのかを明らかにしようとした。調査の結果、フランスや韓国の事例では、「国家」を基準とし、「ミュージアムの思想」にもとづく芸術や歴史という観点からの選択が行われ、来館者にもそうした理解が求められていることがわかった。日本では、こうした価値を踏襲しない・できないために問題が生じていた。しかし、ここにポピュラー文化に即した価値創造の可能性を見出すこともできる。

研究成果の概要（英文）：

Our research focuses on museums that collect, preserve, and exhibit consumed and discarded popular culture, and we aim to clarify who determines what is "culture", and what is selected as "culture". Based on the results of our survey, we were able to determine that in case studies from France and Korea, the nation state was the standard, and choices were made from art and historical perspectives following museum guidelines, and for this, French and Korean museums ask for understanding from their guests. In Japan however we do not, or cannot, follow this tendency, and because of this problems arise. However, here we can find value creation that is aligned with popular culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：ポピュラー文化 グローバリゼーション 記憶 ナショナリズム ミュージアム
地域

1. 研究開始当初の背景

マンガミュージアムや映像アーカイブのように、ポピュラー・メディアの収集や展示

を行う施設が世界各地に出現しつつある。この、ポピュラー・メディアのアーカイブを成立させるためには、各国、各地域において、

「何を」(集め、保存するに足る)文化とみなすのか、その文化を所有・共有するのは誰かという問いをめぐる文化政治が存在することとなる。こうした状況を分析するために、ポピュラー・メディア文化の博物館という「場」に焦点をあて、国際比較を行いながら考察を進めていくこととした。

2. 研究の目的

本研究は、グローバルに流通するが消費されたあと廃棄されることが多いポピュラー・メディア文化を、収集・保存・展示する博物館が世界各地で誕生しているという事実に着目し、廃棄される文化と保存される文化の境界を定める歴史意識とナショナリズム、そして受容者の主体構築をめぐる文化政治を、社会学的視点から明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

研究は、以下の手順にそって進められた。

- (1) ポピュラー・メディアの博物館における収集・保存・展示実態の把握。
- (2) 来館者の博物館体験と実践に関する調査。
- (3) 1.2.を元に廃棄されるものと保存されるものの境界を定める歴史意識とナショナリズム、そして受容者の主体構築をめぐる文化政治とはいかなるものなのかを検討する。

4. 研究成果

21年度にはポピュラー・メディアの博物館における収集・保存・展示実態の把握を行った。具体的には、日本の京都国際マンガミュージアム、韓国の韓国マンガ映像振興院、フランスの Cite internationale de la bande

dessinee et de l'image の実態を把握するためのフィールドワークを行った。各館の文化政策や地方行政とのかかわりなど、政治、経済的側面からの把握をはじめ、収集・保存・展示の理念やその実行の程度について文書資料、統計資料の収集を行うとともに、現地調査をおこない、展示を分析、博物館研究員らへのインタビューを行った。これによって、各国の博物館の位置づけには、歴史意識やナショナリズムのありかたが大きく影響している様が明らかになった。

22年度には、博物館来館者に対する調査を実施した。その結果、博物館に集う人々のポピュラー・メディア体験を捕らえるための調査方法について、再検討が必要であることを確認した。また、国内の博物館の特徴をとらえ、設立側の論理をより深く理解するために、村おこし、町おこしの文脈との関係に着目していくことが必要であることもわかった。この成果は、延辺大学(中国)で開催されたシンポジウムで発表し、有意義な意見をえた。地域振興政策としてのポピュラー文化の保存への動きは、グローバルな現象として共有されつつあることも確認できた。

23年度は、21年度、22年度に行った調査の追加、補足調査を行うとともに、これを発表した。昨年度実施予定したまんが関連施設来館者のポピュラー文化体験に関する調査を継続する形で発展させ、広島、宝塚の関連施設も視野にいれ、これらと京都国際マンガミュージアムとの比較可能性を探った。これに加え、フランスにおいて「メディアアート」を主に扱う「ラ・ゲテリリック:La Gaité Lyrique」の視察、韓国漫画映像振興院での追加インタビューを実施した。

この結果、「ミュージアムの思想」(松宮)にのっとり、ポピュラー文化に「真正性」を与えようとするフランス・韓国の各施設の

戦略では、歴史意識やナショナリズムとの結びつきが比較的明確であるのに対して、日本国内の事例はこうした文法を必ずしも踏襲していないことがわかった。

ポピュラー文化のミュージアムとみなせる国内施設の多くでは、ポピュラー文化の保存や再生への取り組みよりは、その存在意が「地域振興」や「観光客誘致」あるいは、地域住民の満足度といった尺度によってはかれる傾向にある。つまり、ポピュラー文化の再生産や持続可能性、共有可能性についての議論を行うための「ポピュラー文化ミュージアム」の「思想」が、必要とされている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 山中千恵、〈マンガ文化〉を資源とするミュージアムの設立と文化政策——韓国漫画映像振興院の事例から、仁愛大学紀要、査読無、10号、69-77
- ② 山中千恵、村田麻里子、伊藤遊、谷川竜一、人はマンガミュージアムで何をしているのか—マンガ文化施設における来館者行動と〈マンガ環境〉をめぐって、マンガ研究、査読あり、17号、2011、76-85
- ③ 猪俣紀子、伊藤遊、山中千恵、吉村和真、マンガを誰が、何のために集めるのか—フランスの〈マンガミュージアム〉CIBDI の事例から、京都精華大学紀要、査読無、39号、2011、212-224
- ④ 山中千恵、村田麻里子、谷川竜一、伊藤遊、京都国際マンガミュージアムにおける来館者調査—ポピュラー文化ミュージアムに関する基礎研究—、京都精華大学紀要、査読無、2010、37号、51-66
- ⑤ Chie Yamanaka、The Korean Wave and anti-Korean discourse in Japan: A genealogy of popular representations of Korea, 1984-2005. Complicated currents: Media flows and soft power and East Asia. 査読無、2010、2. 1-2. 14
- ⑥ 山中千恵、「たかがマンガ」を通して見え

る日韓社会とは、第二期日韓歴史共同研究報告書(第三分科会編)、査読無、2010、339-359

[学会発表] (計4件)

- ① 山中千恵、誰のためのマンガミュージアム? 第三回国際学術会議マンガの社会性—経済主義を超えて、2011年9月15日、韓国漫画映像振興院(富川市・韓国)
- ② Chie Yamanaka、NARUTO as a manhwa: On the reception of Japanese popular culture in the Republic of Korea、Intercultural Crossovers、Transcultural Flows: Manga/Comics、2010年10月2日、Cultural Institute of Japan、Cologne (ドイツ)
- ③ 資源としてのポピュラー文化—地域活性化の試みと場所の消費をめぐって、第1回 東北アジア地域社会研究フォーラム、2010年9月13日、延辺大学(中華人民共和国)
- ④ Chie Yamanaka、How to grasp the manga experience、"Comics Worlds and the World of Comics: Scholarships on a Global Scale"、2009年12月20日、京都国際マンガミュージアム

[図書] (計1件)

- ① 山中千恵他、『コモンズと文化』山田奨治編、東京堂出版、2010、46-80

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山中 千恵 (YAMANAKA CHIE)
仁愛大学・人間学部・准教授
研究者番号: 90397779